


分野	51	環境共生	<b>通番 122</b>
施策	512	生活環境の保全	
<b>5年後の目標</b>		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	<b>環境監視事業</b>		会計	款	項	3,945,473	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
大気・水質・騒音・振動等の状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。							


令和2年度の取組							
D (取組)	指標	小畑川、小泉川の透視度:30cm以上、BOD:2mg/ℓ以下、PH:6.5~8.5の維持状況				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	(小畑川(井ノ内橋))透視度:27cm BOD:1.1mg/ℓ PH:7.9(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.7 (平成26年度)	目標	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持
実績		(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm BOD:0.7mg/ℓ PH:8.0(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.8mg/ℓ PH:8.0(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:8.2	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気、水質、騒音検査を実施し、環境基準と比較しました。</li> <li>・大気調査は67か所で実施しました。</li> <li>・地下水及び河川15か所での調査を実施しました。</li> <li>・環境騒音及び自動車騒音の調査を31か所で実施しました。</li> <li>・それぞれの調査で得られた結果を国や京都府などに報告し、また関係部署とも情報共有に努めました。</li> </ul>					小畑川の様子		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和2年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		小畑川・小泉川の主要河川水質指標	PH値(水素イオン濃度)6.5~8.5、BOD(生物化学的酸素要求量)2mg/ℓ以下のため水質は良好です。		209
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気調査は環境基準の超過はありませんでした。</li> <li>・地下水の水質調査では農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められました。地質といった自然由来の影響で超過することがありますが、農業用の水質基準は満たしています。</li> <li>・河川調査では6河川8地点で年4回調査を行ったところ延べ238項目が基準値内でした。</li> <li>・騒音調査では6か所で一時的に環境基準を超過していましたが、自動車騒音については措置が必要となる要請限度は超えていませんでした。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気、水質、騒音など環境保全の分野は範囲が広いので、広い視野と専門的な知見、技術を継承しながら取り組むことが必要です。</li> <li>・環境基準を超過した項目がある地点について、生活環境への影響を考慮し経過観察が必要です。</li> </ul>				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全意識向上のためにも関係する機関と協力しながら、市民、事業者等への啓発が必要です。そのため、今後も継続して生活環境保全のための監視を行い、状況に応じて啓発や指導を行います。</li> <li>・専門的分野に対応するため、京都府等の研修により知見を深めるとともに、委託も活用しながら環境監視を行います。</li> <li>・大気、水質、騒音、振動等について環境基準をもとに適切に評価を行います。</li> <li>・環境基準を超過した項目、地点については京都府や関係部署にも報告を行い、情報共有をしながら監視を継続します。</li> </ul>

分野	51	環境共生	<b>通番 123</b>
施策	512	生活環境の保全	
<b>5年後の目標</b>		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>環境都市宣言啓発推進事業</b>		会計	款	項	目	152,410	環境政策室
			一般	4	1	8		
事業の概要								
環境フェア等の実施を通じて、市民の環境活動への参加を促し、“環境の都”長岡京の実現のため取り組みを進めます。 また、西代里山公園を拠点に、環境活動団体がつどい、協働による環境まちづくりを進めます。								

令和2年度の取組							
D (取組)	指標	環境フェアへの参加団体・企業数				単位	団体
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	32	33	34	34	34
	31(平成26年度)	実績	34	34	35	35	23
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、会場に人を集めて実施することはせず、ラジオとホームページを活用した、オンエア・オンラインでの開催としました。</li> <li>・これまでブース出展いただいていた団体等に、活動内容や環境への想いをラジオやホームページを通じて発信いただきました。</li> </ul>				ラジオを活用した環境フェア			
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急な実施方法の変更により、参加団体・企業数は大幅に落ち込みましたが、参加いただいた団体等からは、参加しやすいなどの好評をいただきました。</li> <li>・これまで会場にご来場いただいていた方以外の層へ、新たに啓発ができたものと評価しています。</li> <li>・ラジオやホームページという媒体を活用することで、会場スペースに制限を受けず、団体等が参加できる道が開けたものと評価しています。</li> </ul>	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオやホームページによる開催の場合、体験して実感するということが難しいという課題があります。</li> <li>・一方、会場開催の場合には、体験ができるなどのメリットがありますが、新型コロナウイルスの流行がなかったとしても、会場での集客は、頭打ちの状況に来ているなどの課題があります。</li> </ul>	

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	2: 進め方の改善の検討が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対応策等</li> <li>・ 今後は、会場開催とラジオ・ホームページを併用する形での実施方法を模索します。</li> <li>・ また、会場開催においては、農業祭との合同開催を目指し、集客などの面で双方にメリットがある実施方法を模索します。</li> </ul>